



ビロードうさぎ

マージェリィ・ウィリアムズ 文

ウィリアム・ニコルソン 絵

石井桃子 訳

童話館出版 2002年(初版1953年岩波書店)
1400円

ビロードうさぎは、他の高価なおもちゃと比べ、自分はずまらないものだと思っていました。子ども部屋の木馬は、おもちゃは持ち主に愛されると「ほんとうのもの」になれると教えてくれます。長い間かわいがってくれたぼうやが猩紅熱にかかった後、うさぎは周りの大人によって捨てられてしまいますが…。



ふたりのロツテ

エーリヒ・ケストナー 作

ワルター・トリヤー さし絵

高橋健二 訳

岩波書店 1962年 1560円



ルイーゼが夏休みに子どもの家で会ったのは、自分にそっくりな女の子ロツテでした。自分たちが実は双子の姉妹だと知った2人は、別れた両親を仲直りさせようと、こっそり入れ替わります。スリルに富んだ毎日を過ごしていましたが、ある日、お父さんに新しい婚約者が現れます。



フランダースの犬

ウィーダ 作

ハルメン・ファン・ストラーテン さし絵

野坂悦子 訳

岩波書店(岩波少年文庫) 2003年(初版1957年)
640円



ネロは、おじいさんと老犬パトラッシュと牛乳運びをして暮らしていました。幼なじみの女の子アロワの父は、貧しいネロと遊ぶことを禁じ、村の人々の態度も冷たくなります。ルーベンスに憧れるネロは、画家になることを夢みて、展覧会に出展しますが…。他に「ニュルンベルグのストーブ」がおさめられています。